

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障碍のある人やひきこもり者などの多くがもっている優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、NPO 法人 障害者芸術推進研究機構（天才アート KYOTO）が独自にネーミングしたものです。当機構は天才アートを推進し、その啓発・普及活動を積極的に行っています。



発行日 2021年9月15日（水）

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構**天才アート KYOTO**発行所 〒603-8226
京都市北区紫野西舟岡町2番地
ふれあい共生館「きたアトリエ」
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集協力 株式会社 三六六

天才アート

検索



『あべのハルカス 東館』山川 隆晟 Takaaki Yamakawa 1992年生 鉛筆・色鉛筆・画用紙 350mm x 250mm 2021年作

展 覧 会

予 告

第9回天才アート展 「OPEN STUDIOS 2021」 開催のお知らせ

2021年9月25日(土)～10月10日(日)まで、第9回天才アート展「OPEN STUDIOS (オープン・スタジオ) 2021」を、拠点である天才アートKYOTOきたアトリエ(ふれあい共生館内)にて開催します。この展覧会は今年5月の「きたアトリエ」への移転後初のアトリエ公開型の展覧会です。天才アートKYOTOでは、登録作家40余名が自主的に独創的な制作を行っています。NPO法人設立10周年を迎え、国内外での展覧会参加やデザイングッズ展開など、ますます才能豊かな作家たちの活躍の場が広がっています。

本展では、制作現場を展示会場にすることで、「作品が生まれる臨場感」と「生まれたての作品が放つ熱量」のある作品展として、地域のみなさまをはじめ広く社会に発信します。

また、今年も10月1日(金)はアンステイチュ・フランセ関西主催の「ニュー・ブラッシュ KYOTO 2021 ～パリ白夜祭への架け橋～現代アートと過ごす夜」にも参加し、当日は21時まで開館します。

皆さまのご来展を心よりお待ちしております。

感染予防対策を徹底して開催しますが、状況により急遽中止となる場合があります。



第9回天才アート展「OPEN STUDIOS 2021」のイメージビジュアル

中止の場合は、当機構のサイトまたはSNSなどでお知らせします。

会期：2021年9月25日(土)～10月10日(日)

会場：きたアトリエ(北区紫野西舟岡町2・ふれあい共生館) 交通：市バス千本北大路またはライトハウス前下車・徒歩1～2分。駐車場はありません。公共交通機関で起こしてください。

主催：NPO法人障害者芸術推進研究機構・京都新聞 共催：京都市・京都市教育委員会 後援：(公財)京都新聞社会福祉事業団・京都市立総合支援学校長会 助成：北区まちづくり提案支援事業・(公財)大阪コミュニケーション財団/山口淑子友愛基金 協賛：洛和会ヘルスケアシステム 協力：文化庁地域文化創生本部・アンステイチュ・フランセ関西

展 覧 会

報 告

京都新聞社会福祉事業団主催 第39回京都新聞 チャリティー美術作品展 「特別展示」に出展

会報26号でお知らせしました「京都新聞チャリティー美術作品展」は、8月11日(水)より16日(月)まで開催され、無事に終了しました。

京都高島屋7階イベントホールの会場入口に設けられた展示スペースには、毎週月曜日の京都新聞朝刊「私の作品」欄に掲載されている作品の「原画」を展示・紹介する特設コーナーが設けられ、当機構からは10点を出展しました。

原画作品は販売を目的とせず、あくまで参考展示なのですが、購入希望の声もかなりあったようです。

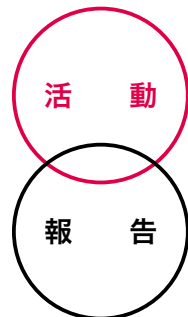
今回、福祉のためにと全国の著名な美術家(日本画・洋画・陶芸・工芸など)約1400人から寄贈された作品は、1000点近くに達したとのこと。入札により多くの作品が購入され、売却収益は京都新聞社会福祉事業団の公益福祉事業に役立てられます。



特設コーナーに展示された当機構の作品



同展の入口付近。特設コーナーは左の入り口の右側壁面です



陶芸活動をスタート

本年4月、当機構が「きたアトリエ」に移転したのを契機に「陶芸活動」を開始しました。

きたアトリエのあるふれあい共生館は、統廃合により閉校した小学校の校舎を改修した施設ですが、閉校時に廃棄予定であった陶芸電気窯を譲り受け、再利用することにしたものです。また、電動土練機や手回しろくろは、昨年度中に公益財団法人京遊連社会福祉基金様の助成により購入し、準備を進めてきました。

この分野の制作活動は当機構設立当時の念願でもありましたので、これから生まれる作品が楽しみです。



1階奥のピロティに設置された陶芸電気窯

『天才アート KYOTO 作品集 2021』を刊行。 第9回天才アート展で販売します

先号でもご紹介しましたが、『天才アート KYOTO 作品集 2021』を刊行しました。『天才アート KYOTO 作品集 2021』は、掲載作家39人、A5サイズ、合計84ページ、オールカラーの携帯しやすいハンドブックサイズです。

2021年9月25日(土)～10月10日(日)までの、第9回天才アート展「OPEN STUDIOS (オープン・スタジオ) 2021」で実費にて販売(500円)を行います。他にも作品アーカイブを活用した製品も販売します。この機会に是非「天才アート」な作品世界の一端をお楽しみください。

*本作品集は、公益財団法人大阪コミュニティ財団/山口淑子友愛基金の助成を受けています。



焼成前の粘土造形



川嶋 誉大 (1996-) Kawashima Yoshihiro

川嶋はクレパスを寝かせて手に持ち、色画用紙に描きつけることで、オール・オーバーな画面をめぐる視線の誘導に努めます。彼はクレパスを「描きつける」という行為そのものを愛しているのです。そこに生まれるものは軌行きや何かを聞いた形もなく、色彩と線跡があるのみです。彼が描く時はダイナミックに身体を全部使い、時にリズムをとりながら描いていきます。無心に楽しみながらも微しい確率から生まれた静謐な画面は、観る人によって多様な印象を抱かせます。



【制作】2016年 クレパス、色画用紙 300mm x 540mm



【制作】2016年 クレパス、色画用紙 300mm x 540mm



『天才アート』を 商標登録しました

最近、知的財産権の重要性や保護ということがよくいわれます。知的財産権の一つに商標があり、多くの企業や団体などで社名や商品名などのシンボルマーク、ロゴが商標登録されて、保護されています。

しかし、以前から商標登録をしていないために「類似商標や屋号」が原因となつて会社間で争いが生じ、裁判などになるニュース報道を目にすることがよくあります。当機構では、こうしたことを未然に防いで知的財産権を守るため、『天才アート KYOTO』とシンボルマークを商標登録しました。

これを契機に、これまで進めてきた「作品アーカイブ提供事業」をはじめとする諸事業をさらに発展させてまいります。

TENSAI ART NOTE

天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー
ト



『n140F_Jikokuten 西村紫苑「持国天」』
W105×H250×D45mm ペン・透明テープ・色画用紙
2017～2019 年制作



『n3F_Jinjadaisho 西村紫苑「深沙大将立像」』
W100×H275×D37mm ペン・透明テープ・色画用紙
2017～2019 年制作

西村 紫苑

西村 紫苑 Nishimura Shion 2002年生

西村は、13歳頃よりそれまでの作画表現から進んで、「ウルトラマン・シリーズ」「大魔神」などの特撮ヒーローや怪獣、「八部衆（仏法を守護する八神）」や「十二神将（護法善神）」などの仏像を元に、段ボールや色画用紙と透明テープなどを使ってフィギュアを制作しています。

その制作プロセスには、フィギュアに直接ペンで身体を細部まで描き下着をはかせた上で、服を制作します。それらを観客は決して観ることができませんが、そのプロセスを経ることによって、まるで実際の仏像が仏性を秘めるため内部に胎内仏や舍利が納められ作られるかのように、彼はフィギュアに「命」を与えています。

服部 可菜恵 Hattori Kanae 1994年生

服部は花や植物を油性ペンと鮮やかな色彩のアクリル絵の具を用いて描いています。

しばしば「茎」「花卉」「土」は省略され、作者独自のシンプルな形状へとデフォルメされます。「花」であると同時に、どこかしら「人」のようにも見え、一本一本の花が互いに会話をしているかのようにも見えます。どの服部作品も植物に対する彼女の優しいまなざしを感じることができます。



『n129F_ALIEN TERRORIST 西村紫苑「テロリスト星人」』
W150×H240×D45mm ペン・透明テープ・色画用紙 2017～2019 年制作



『もみじ パンダ』 W380×H270mm 画用紙・水彩絵の具 2021年制作

上田 彩

上田 彩 Ueda Aya 1989年生

上田は、幼少期より身の回りの出来事や季節折々にある家庭や学校の行事などを好んで描いてきました。長じてもそのテーマは一貫しており、今も、家庭や通所する事業所などでの季節の行事やレクリエーションをテーマに描き続けています。そして、作品には、必ず本人や近い人をモチーフにしたり、大好きなパンダを擬人的にアレンジしたりするなど、独特の画風で絵日記を描くように制作します。彼女が生み出す絵画の世界には、平和で楽しく穏やかな時が流れています。



『サクラ パンダ』 W380×H270mm 画用紙・水彩絵の具 2019年制作



『カレンダー』 W297×H210mm 画用紙・水彩絵の具 2018年制作



『ウメ』 W330×H540mm 画用紙・水彩絵の具 2021年制作



『ヒヤシンス』 W270×H380mm 画用紙・水彩絵の具 2021年制作

ご家族さま
より寄稿

アートでつながる

本 康子

●予感的中!!

「自閉傾向ですね」。3歳児検診で別室に呼ばれ、心理士さんからそう言われたときのことは、今でも部屋の景色まで覚えています。身体は健康そのもの、寝返りも標準より早くクリアしていて、母は鼻高々だった乳児期。順調に育っていました。ただ、2歳を過ぎたところからコミュニケーションに「ん？」と思うことがあり、父も当時「ちはると会話できる気がしない…」などと言いつち出しました。「えー!そんなことないやろ、人付き合いに淡白なだけじゃない?こんな小さいのに看板の英語も読むし。小さい人形並べておままごとしてるみたいやし」と、私はあまり深く考えませんでした。しかし、何となく発達障害についてネットで調べ、当てはまる? 当てはまらない? とモヤモヤしていました。そして見事に父の予感的中したわけです(的中してほしくなかったけど)。

幼少期のちはるは、聴覚が過敏で視覚からの情報に強く、看板のロゴを見ては「エーユー」「ジェーティー」とつぶやいていました。のんきな両親は「すごい!」と喜んでいました。父の仕事の都合でこの頃は引越しが多かったのですが、ぐずぐずと不機嫌なとき、落ち着かないときには絵描き歌やキャラクターの絵を描いて見せると収まって、何度も何度も描くように訴え

てきました。おかげで私のアンパンマンのキャラクターたちを描くスキルはかなりアップしました。このときは自分で描くというより見る方に集中している様子でした。

●制作の始まり

就学前にたまたま手にした紙粘土でドーナツ屋さんキャラクターのライオンやドーナツを作り出し、その後いろいろな食べ物を作るのにはまります。作ってはテーブルに並べてを繰り返し、一時期ダイニングテーブルいっぱい並べて満足するので、私たちはとにりに小さなちやぶ台を出して細々と食事をしていた時期もありました。私の料理に対する何かのアピールだったの



粘土で作った小さな食べ物



切り絵作品

か、はわかりませんが。

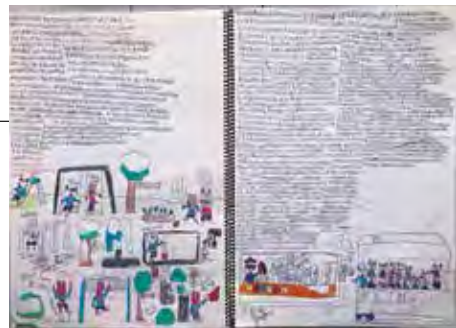
紙粘土も白から色付きを使ったり、小学生のころは食べ物の色を追求したかったようで、絵の具を混ぜたり、大きさも小さく細かく作るようになりました。スイーツの作品は見えていてほっこりします。

制作は多岐にわたり、並行して切り絵もするようになりました。下書きなしでサクサクと切り出し、楽器を演奏する人やアニメのキャラクターと思われるものをどんどん作っていました。

小学校の高学年になると、それまではぼつぼつ描いていた絵にも楽しみを感じたのか学校の様子や生活の様子、絵本やアニメをデフォルメしたオリジナルキャラクターを独特のレイアウトで描きます。みかんを積んで雪だるまに見立て、ためらいなくみかんに油性ペンで顔をガシガシ描いたり、小松菜の根元を切り落とした切り口を見て「薔薇だ」とつぶやいたり、この時期は想像力(創造力)と制作にあふれてる、という感じでした。

●天才アートKYOTOとの出会い

制作大好き、という小4の時に天才アートKYOTOのアトリエに出会いました。ちはるのことを小さい時から知ってくださっている方がたまたま展覧会に行かれて、数々の作品に感激し、ちはるの作品も一度見てもらったかどうか?と連絡をくだ



学校や生活の様子を描いたノート

なにぶん周りの音や人に過敏なタイプで長い時間は居られませんが、ちはるにとっても私にとっても社会の中で居場所ができたような気持ちになりました。

展覧会に出展していただいたときのことで。受付のお手伝いをしていて来場者アଙ୍କケートを整理していたのですが、その中に6歳のお子さんのものがあり、「良かった作品…ねんどでつくったちいさなたばこの」と書いてくれたのを見て涙が出そうになりました。また、阪急京都線の地下通路でのポスター展示の時には、ご近所の方や昔お世話になった学校の先生から「作品見たよ!すごいね。」と声をかけていただいたりしました。

本人は社会性が低く、人と関わるのが苦手な距離をとるタイプなのですが、天才アートKYOTOと出会って、作品を通じて人とのつながりを持つことができました。現在は思春期にかり、制作もマイペースですが、これからもアートで社会とつながれたら…と思っています。



粘土で作った食べ物

トピックス

レポート

ひきこもり者支援事業

ものづくりに参加してみませんか

今年度も当機構では、京都府の補助金事業として「ひきこもり状態にある者のための社会参加支援事業」を行っています。

外に出るのが不安な人や、人と会うのが苦手な人など、どうしてもひきこもりがちになる人で、自分一人のできる絵画制作や陶芸制作など、アート創造活動に興味や関心のある方、何もできないけどクレヨンや絵筆を持ってみようかなと思われる方などなど、誰でも参加できます。



アトリエで制作中の作家

制作活動をやってみようと思われる人には当機構が場所や材料を提供して、自由に創作活動をしていただけます。

そして何よりも作品を生み出すことで、社会との接点を持つことが自然と生まれま

す。好きなことを集中してやると、達成感や自己肯定感を高めることができます。

そんな力がアートにはあるのです。気楽にのぞいてみてください。当機構はそんな皆さんを応援しています。

【Eメール】info@tensai-art.kyoto

『天才アート作品アーカイブ』の活用

当機構では、二〇一五年度よりアトリエ内に照明機材を導入して作品撮影スタジオを整備し、現在四、〇〇〇点近くになる収蔵作品のアーカイブ化を進めています。これまでに一、八〇〇点を撮影し、作品タイトルや作家名などのデータ処理を済ませています。

二〇二〇年より、この作品アーカイブ画像を企業などがさまざまな活用でできるようネット上で公開しています。当機構 Web サイトに閲覧・検索用の低容量 PDF データをアップしていますので、希望する作品をネット上からお申込みいただくと、高精細の原画像を提供するシステムです。これまでに、企業 4 社、3 団体、4 行政機関等で採用されています。そして収益は「著作権料」として作家に還元されます。



株式会社増田医科器械様広報誌

このように『天才アート作品アーカイブ』は会社の広報誌・PR誌の表紙絵、製品デザインへの採用、企業イメージアップなどさまざまなご活用いただけます。
(詳細は当機構 Web サイト、<http://www.tensai-art.kyoto> または「天才アート」で検索してご覧ください)

天才アートKYOTO
× SUZURI
好評発売中!!

昨年に引き続き、「作品アーカイブ提供事業」の一環として、登録作家やその作品の知名度向上や多様なグッズ展開を行うため、「SUZURI by GMO」<https://suzuri.jp> を用いて、順次新たなグッズ制作および販売を行っています。

SUZURI とは、在庫を持たずに、注文を受けた時点でグッズを作成するサービスです。天才アート KYOTO の作品アーカイブ画像のデータを元に、順次グッズデザインを行っています。デザインできる商品

としてはスマホケース、Tシャツ、トレーナー、メモ帳、マグカップ等があります。作成した商品は、SUZURI サイトを通じてのみ購入いただけます。SUZURI のサイトは、インターネット検索で「SUZURI 天才アート KYOTO」と入力するか、掲載している QR コードをスマホでスキャンすれば、すぐにショップページが表示されます。



QR コード

現在、当機構の作家の作品を順次制作中です。お知り合いの方への広報にご協力いただけますようお願いいたします。皆さまのご協力を何とぞよろしくお願いいたします。



スマホケース



T シャツ

天才アートKYOTO10年のあゆみ 〜アートで豊かな社会へ

当機構は障碍のある人の芸術活動の推進・支援を目的に2011年8月に設立しました。翌年にはアトリエを開設し、今まで多くの登録作家の方々に創作の場として提供してきました。

この間、作品の収蔵とそのアーカイブ保存を進めながら、毎年、展示会や様々な展示企画により作品の魅力と芸術的価値を紹介してきました。その結果、多くの市民にファンとなつていただき、企業・行政・団体様にも協賛や連携をしていただいています。

私たちの活動内容は、①芸術創作制作活動、②作品収蔵、③展示会等展示活動、④作品アーカイブ保存、⑤作品販売とアーカイブ提供・著作料還元、⑥広報活動、⑦芸術創造に関する研究の7分野にわたります。

これらを通じて、作家諸氏の主体的で創造的な社会参加が進み、市民や企業の皆様とつながり著作料の還元などによる経済的な自立にもつながっています。さらに多くの皆さまの作品アーカイブ利用や作品の購入、レンタルなどをお待ちしています。

◇お問い合わせは当機構 Web サイトへ!!

会員・寄付および ボランティアさんを募集しています

障碍のある人のアート創作活動を推進するために、作品を創る環境を整え、作品をアーカイブ（記録・保存）し、作家別にポー

トフォリオ（作品集）を編集・制作すること、作品を商品デザイン化するアイデアを出し、実現させていくこと、活動をPRしていくこと…など、サポートしていただけることはたくさんあります。アートを勉強中の若い皆さん、さまざまな分野で活躍されている社会人の皆さん、社会貢献に興味のある方、特技やノウハウを活かして、私たちの活動にぜひ参加してください。

●以下のような活動に関わっていただける方を募集しています。

- ①会報・広報活動の企画・編集
 - ②作品のデザイン化・商品化などの企画
 - ③その他、得意分野を活かした活動など
- 詳しくはホームページをご覧ください。
<http://tensai-art-kyoto.jp/>

会報広告主さま募集中!

『会報 天才アート』は、展示会の予告や報告をはじめ、さまざまな活動報告、登録作家の作品紹介やご家族からの寄稿文など、当機構に関わる情報を掲載しています。

会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。

当機構の活動にご賛同いただける企業さまや団体・組織の広告協賛を募集しています。ぜひともご協力をお願いいたします。

1 枠 (55×22mm) … 1万円 (4 回掲載)

●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art-kyoto.jp

〈編集後記〉

コロナ禍の中、東京2020オリンピック、パリンピックが開催されました。開催には賛否両論があるものの、真剣に競技に取り組むアスリートがたちの姿は尊く、多くの人々に感動を与えました。さて、「きたアトリエ」に移転して4カ月。新しい環境にも慣れ、創作活動も軌道に乗ってきました。そこで、きたアトリエを皆さんに知っていただくため、第9回天才アート展「OPEN STUDIOS 2021」をきたアトリエで開催します。本展では、制作現場を展示会場にすることで、「作品が生まれる臨場感」と「生まれたての作品が放つ熱量」を感じ取っていただけます。コロナ感染の予防策も万全に、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

【表紙の作品について】

山川は、色鉛筆を用いて実在の神社や寺やビルなどの観光名所をスケッチブックに描き続けます。建物や植物は細部まで丁寧に描かれ、ローマ字表記や最寄り駅の情報など、ガイドブックのように建物の解説も書かれています。以前から「京都」や「奈良」を好んで描いていましたが、近年は「大阪」を描くことが多くなりました。「大阪」を描く時は夕日に染まった絵を描くことがほとんどで、都市の魅力を最大限に引き出す「時間」も閉じ込めているかのようです。近作である「あべのハルカス 東館」では、古都京都と奈良1000年の象徴である天女とあべのハルカスが同時に描かれ、古代と現代の日本が時代を越え融合したかのようなドローイングも描いています。



『あべのハルカス 東館』山川 隆哉 Takaaki Yamakawa
1992 年生 鉛筆・色鉛筆・画用紙 350mm × 250mm
2021 年作

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



吉村建設工業 (株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

広告協賛企業 (順不同)

わたしたちは天才アート KYOTO の活動に賛同しています



夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院